

## 総合治水ワーキングチーム会議の検討項目

区 分	主な検討項目	備 考
第1回 7/20(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の進め方 優先順位をつけて、審議する。まず、流域対策（森林、農地、ため池）から開始する。 必要に応じ、農地、森林等担当部局もWTに出席する。</li> </ul>	6/20 総合治水WT設置
第2回 8/11(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合治水の考え方 河川審議会中間答申（S52,H12） 鶴見川の基本方針、総合治水の一般例</li> <li>・森林、農地、ため池の事例検証 日本学術会議答申(森林の治水効果)、緑のダム、大和川のため池の治水利用、新潟県神林村の洪水防止水田等</li> <li>・関係部局からヒアリング</li> </ul>	関係部局出席
第3回 9/1(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林、農地、ため池以外の流域対策の事例検証 静岡県富士市の小学校グラウンドの周囲堤と地下貯留槽の併用、横浜市の公園地下貯留施設、スポーツガーデン駐車場の貯留施設</li> <li>・河川対策 加古川、新湊川の築堤、護岸、河道掘削、石井ダム等</li> <li>・関係部局からヒアリング</li> </ul>	関係部局出席
第4回 9/12(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の進め方(第2回、3回の資料、ヒアリング等を踏まえて) 流域対策、河道対策、貯留対策の区分ごとに、検討を進める。 森林の治水機能（緑のダム）について、専門家の意見を聴取するため、公開の勉強会を開催する。 定量化が可能な対策（農地、ため池、学校等）については、先行事例を収集し、分析する。 定量化できない対策、支流ごとの対策の取り扱い、計画への反映方法等は今後検討する。</li> </ul>	
第5回 9/22(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員からの提案等 加藤委員から、森林の治水機能関し提言（土壌ごとの水の流れのシミュレーションの必要性、間伐の必要性等） 奥西委員から、表面流出と土壌に関する研究成果、緑のダム等について説明 伊藤委員から、ため池の治水利用、利水ダムの治水活用、遊水池について提案</li> </ul>	関係部局出席
第6回 10/5(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対策効果の評価(検証)方法、課題等の整理方法の検討 流域対策（モデル設定）の効果例を試算のうえ、対策の評価、検証の取り扱いを検討 流域対策（農地、ため池、利水ダム、校庭、公園、駐車場の活用）の可能性と課題を整理</li> </ul>	関係部局出席